

# 1 学校経営全般

評価の観点	指標	回答者	評価項目	令和7年度				結果 A+B	前年比	考察	来年度への対応策
				A	B	C	D				
教育目標	取組	教職員	学校教育目標を意識し、達成のため努力している	60.9	39.1	0.0	0.0	100	0	「ほほえむ子 うやまう子 じょうぶな子」というキーワードをもとに目指す児童の姿を全教職員で共通理解を図ることができた。そして、目指す姿を児童に分かりやすく伝えることで、児童も教師も意識して目標達成に向けて取組を行うことができた。	今後も、全教職員が学校教育目標の目指す児童像の共通理解を図り、学校教育目標を意識した教育活動を行う。
教育課程	取組	教職員	学校行事が精選され、学校教育目標達成のため適切に実施されている	47.8	47.8	4.3	0.0	96	5	各行事におけるねらいや目標を確認し共通理解を図りながら取り組むことができた。実施後すぐに振り返りを行い来年度に向けて検討できた。また、年度初めに年間の見直しをもって月曜校時を計画的に割り振られ、計画通りに行うことで授業時数の確保をすることができた。	地域や児童の実態を把握し、学校教育目標のに照らし合わせながら、学校行事の内容や実施方法を検討、精選していく。また、授業時数は年間の見直しをもって年度初めに曜日の振替を行うとともに、毎月の累計を元に見直しをもって授業を行う。
	満足	保護者	子どもは、体験活動や行事を通して、成長している。	62.1	35.9	3.7	1.3	98	4		
	取組	教職員	年間授業時数の確保に努めている	85.7	14.3	0.0	0.0	100	0		
キャリア教育	取組	教職員	年間を見通して、キャリア教育を進めている	23.8	61.9	14.3	0.0	86	-5	キャリアノートを継続的に活用し、キャリア教育に取り組んでいるが、保護者にはキャリア教育自体が理解されていないため、取り組みが伝わりにくい。	キャリア教育とはどういうものか、その重要性を保護者に伝えていきたい。また、児童には外部人材を活用し、専門家や本物に触れる機会を持つなど、多様な生き方や考え方を学び、子どもたちの視野を広げていきたい。
	取組	保護者	子どもは、将来の夢や希望をもち、意欲的に学んでいる。	26.8	47.3	18.1	7.7	74	-9		
道徳教育	取組	教職員	年間カリキュラムに沿って道徳教育を進めている	57.1	42.9	0.0	0.0	100	11	6月の参観日を人権の日として、全学級で道徳の授業を公開した。年間計画に沿って道徳教育を行い、授業を中心に学校の教育活動全体で道徳教育を行った。	担任が交換授業を行うことで、互いに協力しながら道徳教育を展開できる体制を継続していきたいと考えている。
	取組	教職員	豊かなかかわりの中で、道徳性を培っているか	50.0	50.0	0.0	0.0	100	0		
人権教育	取組	教職員	児童の内面的・共感的理解に努め、一人一人を大切に指導や支援を行っている	81.8	18.2	0.0	0.0	100	1	国籍や民族等の「違い」を認め合いながら、一人一人を尊重した指導や支援を心がけている。また、自他の違いを認め合い、個性を大切にす風土を築くように努めている。	道徳学習や生徒指導を通して、児童や教職員の人権意識を高め、重点的に取組をすすめる人権感覚を培うように努める。
	成果	教職員	自他の違いを認め、豊かな人間関係を築き、互いの人権を尊重しようとする精神が育っている	27.3	54.5	18.2	0.0	82	5		
危機管理 防災教育	取組	教職員	実効性のある防災マニュアルが策定され、共通理解できている	43.5	52.2	4.3	0.0	96	-4	毎月定期的に安全点検を行い危険箇所は修繕を行い、安全安心な環境の維持に努めた。また防災マニュアルに基づいて防災訓練を行うようにしたが、防災マニュアル自体の配布が少し遅れたので、周知の面で不十分であったと考えられる。	防災訓練の反省をもとに、兵庫の防災教育の視点を交えながら、その都度マニュアルを見直し修正や変更を行い実効性を高めたい。また、職員間や地域の方との連携を行ったり、最近の避難等の考え方を取り入れたりしていきたい。
	取組	教職員	災害についての正しい知識や適切な判断力が身につくように防災・防犯訓練が行われている	60.9	39.1	0.0	0.0	100	0		

評価の観点	指標	回答者	評価項目	令和7年度				結果 A+B	前年比	考察	来年度への対応策	
				A	B	C	D					
特別支援教育	取組	教職員	特別な支援を要する児童の実態を把握し、それに応じた指導がなされている	63.6	36.4	0.0	0.0	100	0	支援が必要な児童についてその都度情報を共有し、担任と様々な立場の職員が連携して必要な指導や支援を行うことができた。併せて、特別支援教育コーディネーターを中心にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、一人一人に必要な支援や関係機関への連携を図ることができた。	校内の支援体制が整ってきており、今後も引き続き組織的に取り組んでいけるようにする。また、教職員間での児童の情報共有を密に行い、同じ方向で協力して支援を行っていく。そのために、意識的に情報共有の機会を設定する。	
	取組	教職員	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携が図られている	63.6	36.4	0.0	0.0	100	0			
研究 研修活動	取組	教職員	研究主題について共通理解し、そのねらいに向かって取り組んでいる	50.0	50.0	0.0	0.0	100	5	講師招聘による授業研究会や校内研修を行い、授業のスキルアップを図った。全職員で研究テーマや、授業で大切にすべきところを共通理解することで授業力向上への取組を進めることができた。	来年度も校内研修を計画的に行い、授業力のスキルアップを目指す。特に若手教員の指導力向上のため主幹教諭や中堅教諭が意識的に指導や助言を行っていくようにする。	
	取組	教職員	研究や研修の成果が日々の教育活動に生かされている	54.5	45.5	0.0	0.0	100	9			
学級経営	取組	教職員	学年や学級の目標をめざし、創意工夫を生かした特色のある学級経営がなされている	59.1	40.9	0.0	0.0	100	0	学年、学級目標の達成に向け、常に学年で共通理解を行いながら児童が安心して過ごせる学級づくりに取り組んでいる。	学級の実態を踏まえて目標を立て、児童理解に努めることで、より安心して過ごせる学級づくりができるようにする。	
校務分掌	取組	教職員	分掌表は個々の役割が明確に示され、共通理解されている	56.5	43.5	0.0	0.0	100	0	各担当の役割が明確に示され、責任を持って取組を進めることができています。	分掌内容は確実に引き継ぎ、責任を持って丁寧に役割を果たしていく。	
家庭・地域との 連携	取組	教職員	家庭・地域の理解を得よう努めている	78.3	21.7	0.0	0.0	100	0	学校だよりやHP等を通して学校の様子を積極的に発信し、日々の教育活動に理解を得られるように努めることができた。学校行事のお知らせや急な連絡はメールを活用して伝えることができた。ワッショイスクール協力隊の方々や登下校の見守り隊、民生委員の方々と連携しながら地域で児童を見守ることができた。	今後も家庭や地域の理解を得るために、引き続き、積極的に学校からの情報を発信していく。保護者によるメール確認が確実に行われるように、学級懇談会等の機会に継続して呼びかけていく。また、地域との連携を深めていくとともに地域の資源を活用し、持続可能な取組を実践していきたい。	
	満足	教職員	家庭・地域は協力的である	30.4	60.9	8.7	0.0	91	-4			
	満足	保護者	学校は家庭への連絡や情報提供を積極的に行っている	51.7	38.6	7.7	2.0	90	6			

## 2 ほほえむ子「わかる」「できる」「したい」わくわく学習力アップ

自分 相手 と手 かか り目 的を 意識 して 話を 聞く	取組	教職員	各学年に応じためあてをもたせ、話の聞き方を指導している	72.7	27.3	0.0	0.0	100	5			
	成果	教職員	児童は、各学年のめあてに沿った話の聞き方ができている	4.5	68.2	27.3	0.0	73	1			
	成果	児童	話をしている人の意見と自分の意見を比べながら、話を聞くことができています	35.8	51.3	10.9	2.0	87	3			

評価の観点	指標	回答者	評価項目	令和7年度				結果 A+B	前年比	考察	来年度への対応策
				A	B	C	D				
伝え合う力を高める	相手や目的に応じて話を構成し、適切な言葉で話す	取組	教職員	自分の考えをわかりやすく話すことができるように指導している	40.9	59.1	0.0	0.0	100	10	<p>年度初めにスクリーニングテストを行うことで、児童の実態を把握することができた。学年ごとに結果を考察し、児童の課題をつかみ、授業づくりに生かすことができた。</p> <p>全校一斉に朝の学習に取り組んでいる。今年度は、毎週金曜、4年生以上がモジュールとして国語科の学習をした。新出漢字や小テストを行い、反復練習に取り組んだ。児童のレベルに合わせて、挑戦できるような内容を取り入れており、学習意欲が高まっている。</p> <p>「聞く・話す・話し合う」は昨年度より評価が高い。目標に沿って学級ごとに振り返りながら学習できている。学年のめあてに応じて、聞き方・話し方を確認し、意識づけることができた。</p> <p>各学年のめあてに沿って、話したり聞いたりすることができるよう、「話し方・聞き方のめあて」の確認を行うようにする。そして、学習形態に合わせて、お互いの意見を聞きあうことができる環境を、様々な場面を通してつくっていくようにする。教師が、よいモデルを示すことで、児童にも目標が明確に伝わるようにする。</p>
		成果	教職員	児童は、自分の考えを相手にわかりやすく話すことができる	4.5	77.3	18.2	0.0	82	6	
		成果	児童	話したいことを組み立てて、話すことができる	34.4	44.4	18.9	2.3	79	0	
	互いの考えや立場などを尊重しながらお互いに協力し合って話し合う	取組	教職員	各学年のめあてにそって話し合うように指導している	45.5	50.0	4.5	0.0	96	6	
		成果	教職員	児童は各学年のめあてにそって話し合うことができる	4.5	77.3	18.2	0.0	82		
		成果	児童	話し合いの時には、互いの立場や考えをはっきりさせながら、話し合うことができる	36.4	46.4	14.3	2.9	83	0	
成果		保護者	子どもは、基礎学力を身に付けている	39.3	41.6	15.1	4.0	81	0		
自分の思いを豊かにする	自分の考えを確かめる場面を設定する	取組	教職員	考えさせたい場面では書く活動を取り入れている	68.2	27.3	4.5	0.0	96	0	<p>考えるための手段として「書くこと」を意識した授業づくりを行うことができた。タブレット端末の導入により、「書く活動」よりも「思考する」「共有する」という過程を大切に指導する授業もでてきた。学年のめあてに沿って、わかりやすいノートにするなど、場面に応じた「書く」指導を継続していく必要がある。</p> <p>学年のめあてに沿った「書く力」が伸びるように授業づくりを行うようにする。学年の内容に合わせて、字数制限をしたり、キーワードを使わせたりして、まとめる力を身につけられるようにする。授業では、引き続き、積極的に書く機会をつくっていくようにする。また、タブレット端末も併用し、まとめたり発表したりすることができるようにする。</p>
		成果	児童	書く場面では自分の考えや理由を明確にして書くことができる	47.6	35.8	12.0	4.6	83	-2	
	分かるような学習のあしあとが	取組	教職員	ノートやChromebookを使って、学習内容を分かりやすくまとめることができるよう指導している	40.9	59.1	0.0	0.0	100	5	
		成果	児童	ノートは、学習したことが分かるように工夫してまとめている	49.6	33.5	12.9	4.0	83	-4	

評価の観点	指標	回答者	評価項目	令和7年度				結果	前年比	考察	来年度への対応策	
				A	B	C	D	A+B				
3 うやまう子「〇〇のために」「ありがとう」にこにこ生活カアップ												
気持ちよい学校生活を送ろうとする	自分から進んであいさつすることができる	取組	教職員	自分から進んであいさつするように指導している	59.1	36.4	4.5	0.0	96	5	自分から進んであいさつすることができている児童が少なく、課題が見られる。教職員は、学校長をはじめ、児童がきもちのよいあいさつができるよう、指導はしているが、なかなか児童全員に定着するには至っていない。9月と10月にかけて「あいさつワークプロジェクト」を行った。その期間は、意識している児童が多く見られ、効果があったように感じる。今後も様々な方法を取り入れ、あいさつを進んですることが当たり前になるよう啓発を行う必要がある。	「あいさつをする」という意識が高められるよう、児童会や委員会を中心に取り組んでいく。一人一人が前向きに取り組めるよう、「あいさつワークプロジェクト」のような活動を児童発信で来年度は行いたい。また、振り返りの機会を設け、自分自身や学級学年を見つめ直す機会をとり、あいさつへの意識をつけさせ指導していく。
		成果	教職員	児童は、自分から進んであいさつができている	4.5	36.4	50.0	9.1	41	0		
		成果	児童	だれに対しても進んであいさつをしている	39.8	33.0	20.1	7.2	73	-5		
		成果	保護者	子どもは、進んであいさつをすることができる	29.9	38.9	25.5	5.7	69	1		
		取組	教職員	使ったものの後片付けをするように指導している	72.7	27.3	0.0	0.0	100	5		
		成果	児童	使ったものの後かたづけをしっかりとっている	57.3	31.5	8.3	2.9	89	2		
認め合うクラス作りをする	安心して話せる環境をつくる	取組	教職員	安心して自分の考えを話すことのできる雰囲気をつくることのできている	27.3	68.2	4.5	0.0	96	5	安心して話すことができるクラスだと感じている児童は、7割弱。昨年度よりも落ちているのは、否定的な反応や暴言が多いからだと考えられる。教師も安心して話せる雰囲気をつくること、学級経営を行う必要がある。	マイナスな言葉が減るように、教師自身がプラスの言葉がけをしていく。日々、児童観察を行い、学級経営に生かすようにする。また、児童の情報共有することで、複数の目で児童を観察し、支援していくことができるようにする。
		成果	児童	自分のクラスは、思ったことを安心して話すことのできるクラスだと思う	41.5	34.7	17.4	6.0	76	-6		
相手思いやりの言葉遣い、相手を尊重する言葉遣い、相手を思いやる反応の仕方をする	相手思いやりの言葉遣い、相手を尊重する言葉遣い、相手を思いやる反応の仕方をする	取組	教職員	言葉の使い方について指導している	77.3	22.7	0.0	0.0	100	9	相手思いやりのような言葉遣いができると感じる教師の値は極端に低く、課題が多いことがわかる。教師と児童の評価の差が大きいのは、相手を思いやる言葉遣いの基準がわかっていないと思われる。正しい言葉遣いを確認し、徹底する必要がある。	学級はもちろん、学年、学校全体で、「思いやりのある優しい言葉」について意識し、共有できる機会をつくっていくようにする。プラスな言葉が増えるように、正しい行動を認める声かけを増やしていく。反対に、望ましくない言動があったときには、教師全員が一貫した姿勢で指導できるようにする。教師も、丁寧な言葉をつかうモデルになれるようにする。
		成果	教職員	児童は、相手を思いやるような言葉遣いができる	4.5	45.5	50.0	0.0	50	2		
		成果	児童	友だちの気持ちを考えた言葉遣いができる	41.8	42.4	12.9	2.9	84	6		
		取組	教職員	言葉の使い方について指導している	77.3	22.7	0.0	0.0	100	9		

評価の観点	指標	回答者	評価項目	令和7年度				結果 A+B	前年比	考察	来年度への対応策
				A	B	C	D				
話をせずに清掃活動に取り組む	取組	教職員	時間いっぱい集中して掃除するように指導している。	72.7	22.7	4.5	0.0	95	5	<p>教職員の指導への自らの評価はよくなっています。児童の自己評価は継続して八割を超えています。逆に、児童の実態に対する教職員の評価は5割程度で横ばい。教師の目から見て「最後まで集中できていない児童が一定数いる。」と思っていることが分かります。</p>	<p>終了時刻や指導姿勢が学級ごとに異なり、児童の集中が途切れやすいために、全校で掃除の流れを統一させる。「開始→作業→仕上げ→片づけ→反省」どんなことをするかを明文化・視覚化する。指示する言葉を端的に「今は作業の時間」「次はどう動くか考えて」など。効果的な発言の事例を集め、共有する。</p>
	成果	教職員	児童は、時間いっぱい集中して掃除をすることができている。	4.5	50.0	40.9	4.5	55	0		
	成果	児童	そうじの時間は、話をせずに時間いっぱいそうじをしている	47.9	35.0	12.6	4.6	83	0		
	満足	保護者	学校は校舎・校庭の清掃や施設整備などの環境作りが行き届いている	41.3	50.7	6.0	2.0	92	0		
掃除道具を正しく使う	取組	教職員	掃除道具の使い方について指導している	63.6	36.4	0.0	0.0	100	5	<p>職員の指導がしっかりとできているが、児童の成果が低くなっています。教職員が正しい使い方の基準が明確化することで誤りに気付くようになることで、教師評価が厳しくなつたと考えます。</p>	<p>箒の使い方、塵取りの使い方、雑巾の拭き方を写真付きで掲示する。教師間の「掃除できている状態」を明示、共有化することで児童にもできている状態をわからせる。教師は週1で無言掃除 作業片づけ の観点でチェック。自己評価とどれくらい違うかを気付かせる</p>
	成果	教職員	児童は正しく掃除道具を使っている	4.5	72.7	22.7	0.0	77	-9		
	成果	児童	そうじ道具を正しく使ってそうじをしている	69.6	24.1	4.3	2.0	94	1		
	満足	保護者	学校は校舎・校庭の清掃や施設整備などの環境作りが行き届いている	41.3	50.7	6.0	2.0	92	0		
安全に気をつけて学校生活を送ろうとする	取組	教職員	自分で考えて行動するように指導している	81.8	18.2	0.0	0.0	100	10	<p>防災教育や日々の指導により、児童の安全意識が身に付きつつある。しかし、安全な登下校の仕方などは継続した指導が必要である。登下校に関しては、安全に配慮できていない行動も見受けられたため、安全な登下校、校舎内での過ごし方については、今後も継続的な指導が必要である。また、下校時には落ち着いて帰れるよう静かに集まることを徹底させる。また、校舎内においても、安全に気を付けて生活できているようには感じにくいので、あわせて指導が必要だと感じている。</p>	<p>登校指導・下校指導をはじめ、今後も継続して指導を行う。特に年度初めの下校指導を重点的に行い、安全な下校の仕方を徹底させる。下校時の集まり方も学校全体で強化週間等を設け、徹底させる。全職員で一貫した指導をするとともに、気になる場合はその場ですぐに指導をする。児童の変化が点から線につながるように粘り強い指導を徹底していく。</p>
	成果	児童	安全に気をつけて自分で考えて行動している	53.9	33.5	10.0	2.6	87	1		
	取組	教職員	安全に気をつけて生活するように指導している	81.8	18.2	0.0	0.0	100	0		
	成果	保護者	子どもは、安全に気を付けて生活できている	37.9	46.3	12.8	3.0	84	-2		

進んで清掃活動をする

安全に気をつけて学校生活を送ろうとする

評価の観点	指標	回答者	評価項目	令和7年度				結果 A+B	前年比	考察	来年度への対応策
				A	B	C	D				
3 じょうぶな子「もう1回チャレンジ！」こつこつ体カアップ											
いろいろな運動に取り組む	取組	教職員	体育年間指導計画に沿って多様な運動を計画的に行っている	65.0	35.0	0.0	0.0	100	0	<p>年間指導計画に沿って、多様な学習指導ができている。授業の主運動に入る前の準備運動・柔軟体操の流れを全学年統一のものにした。リズムジャンプトレーニングを北条小瓶に改訂し、年度当初に校内研修を行った。また、担任によって指導の差が出ないように、新単元の最初には、学年体育をしたり打ち合わせをしたりして授業内容の足並みが揃えられるようにした。今年度はマット運動の校内研修を行い、授業法や用具の使い方の交流ができた。</p>	<p>来年度も年間指導計画に沿って学習指導を継続する。学年の足並みをそろえて、児童が分かりやすく、進んで運動に取り組めるような授業内容の工夫を継続していく。教科書がある教科ではないので、ミニ校内研修をすることで、職員の情報交換の場を増やしていきたい。</p>
	取組	教職員	運動量が確保されるように、授業構成を工夫している	65.0	35.0	0.0	0.0	100	7		
	成果	児童	体育の授業ではいろいろな運動に取り組んでいる	62.8	26.1	7.7	3.4	89	-4		
目標を持って運動に取り組む	取組	教職員	個に応じた目標をもたせて運動するように工夫している	60.0	35.0	5.0	0.0	95	-5	<p>学習のめあてをたてて、ふり返り活動をするために、ワークシートを活用したりタブレット端末を活用したりしている。主運動の時間を確保するには、授業時間内にその時間を設けることが難しいことも多いので、他の時間を活用するなど柔軟に対応している。マラソン記録会前には、体育委員会のめあてを全校生に共有することで、意欲の向上につなげた。</p>	<p>今後も継続して、ワークシート・タブレット端末を工夫しながら活用していきたい。運動会やマラソン記録会、対抗リレーなど、行事をうまく活用して、子どもたちの運動への意欲向上につなげていきたい。</p>
	取組	教職員	個に応じた目標をもたせて運動するように工夫している	60.0	35.0	5.0	0.0	95	-5		
	成果	児童	めあてをもつて運動に取り組むことができて	57.0	29.5	9.7	3.7	87	-2		
外で元気に遊ぶ	取組	教職員	休み時間に外で元気に遊ぶように指導している	52.4	47.6	0.0	0.0	100	0	<p>屋休み前には、体育委員会からの放送で外遊びを促した。学級遊びなどを取り入れているクラスも多く、進んで外遊びをしていた。サッカーゴールやバスケットゴールの活用もできている。自由遊びのときには、一部教室でよく過ごす児童もいた。アンケート結果から「外遊びが好きではない」児童も一部いることが分かる。そんな児童も「一日一回は外遊び」できるように引き続きしていく必要がある。</p>	<p>引き続き体育委員会など、児童からの呼びかけを継続する。児童発信の遊びの企画提案などを考えさせる機会も設けたい。なわとび運動を年間通してできるように、エリアの作成やジャンプ台の活用方法など、考えていきたい。</p>
	取組	教職員	休み時間に外で元気に遊ぶように指導している	52.4	47.6	0.0	0.0	100	0		
	成果	児童	休み時間には外で元気に遊んでいる	45.3	16.9	22.1	15.8	62	-5		
健康に気をつけて生活する	取組	教職員	元気ファイルなどを活用して、生活習慣について指導している	66.7	33.3	0.0	0.0	100	5	<p>毎回特に頑張ることを提示して定期的に元気アップ週間を実施した。特にメディアについては、メディア以外の時間を充実できるようワークシートを工夫した。取り組みを通じて帰宅後の過ごし方を見直したり自分の時間を楽しめるようになった様子が見えかけた。教師による劇や保健委員会の手洗い指導を通じて、興味深く生活リズムや感染予防についての意識を高めることができた。</p>	<p>引き続き元気ファイルを活用し、家庭と協力しながら、具体的な健康意識の向上に向けた発信を続けていく。保健委員会の1・2年生への手洗い指導がインフルエンザ流行後になってしまったため、来年度は流行の前に感染予防に関する指導ができるよう時期を設定したい。また、低学年だけでなく、全体への発信も考えていきたい。保健だよりだけでなく、メール連絡も行うことで、元気アップ週間の保護者の協力が得られるようにしたい。</p>
	取組	教職員	元気ファイルなどを活用して、生活習慣について指導している	66.7	33.3	0.0	0.0	100	5		
	成果	児童	健康に気を付けて自分の生活を良くしようとしている	56.4	36.4	5.2	2.0	93	4		
健康に気をつけて生活する	取組	保護者	子どもは、健康に気を付けて生活している	28.9	49.0	17.8	4.4	78	-7	<p>毎回特に頑張ることを提示して定期的に元気アップ週間を実施した。特にメディアについては、メディア以外の時間を充実できるようワークシートを工夫した。取り組みを通じて帰宅後の過ごし方を見直したり自分の時間を楽しめるようになった様子が見えかけた。教師による劇や保健委員会の手洗い指導を通じて、興味深く生活リズムや感染予防についての意識を高めることができた。</p>	<p>引き続き元気ファイルを活用し、家庭と協力しながら、具体的な健康意識の向上に向けた発信を続けていく。保健委員会の1・2年生への手洗い指導がインフルエンザ流行後になってしまったため、来年度は流行の前に感染予防に関する指導ができるよう時期を設定したい。また、低学年だけでなく、全体への発信も考えていきたい。保健だよりだけでなく、メール連絡も行うことで、元気アップ週間の保護者の協力が得られるようにしたい。</p>
	取組	保護者	子どもは、健康に気を付けて生活している	28.9	49.0	17.8	4.4	78	-7		
	成果	保護者	子どもは、健康に気を付けて生活している	28.9	49.0	17.8	4.4	78	-7		